



平成最後のリレーエッセイ

味の素株式会社の岩畑様からバトンを引き継ぎました、株式会社東芝の沖 充浩と申します。研究開発センターに所属しており、各種材料・デバイスの先端分析技術の開発を行っています。岩畑さんとは、このリレーエッセイでもおなじみ(?)の産業界シンポジウムの企画運営委員で一緒させていただいており、いつもお世話になりっぱなしですので、文才のない私ですがこのエッセイ執筆をお受けすることにしました。2019年4月号ということで、平成最後のリレーエッセイとして面白い文章が書けるか心配ですが、最後までお付き合い頂ければと思います。

私の分析化学との出会いは、学生時代ではなく今の会社に入社した時です。大学で分析化学の授業を受けたような記憶はありますが、学生時代は今とは全く異なる研究をしていました。過去のリレーエッセイを読み返しても、学生時代から分析に携わっている方が多く、そういう意味では私のような人間はレアなのかもしれません。入社前の面接の際に「何でもやります!」と言ったら、幸か不幸か分析に関連したグループに配属されました。はじめはICP-AESやICP-MSを使った無機分析を習いましたが、その後、異動された先輩や産休に入られた先輩の穴埋めとしてX線分析や有機分析を習得しました。今では放射光分析なども行っており(この原稿も放射光実験の合間に執筆しております)、学会等で「ご専門は何ですか?」と聞かれると返答に困ってしまうような状況ですが、私には分析が非常に合っていると思います。ということは、当時私を採用してくれた上司に先見の明があったということでしょうか。

さて、話は変わりますが、先日、十年近く乗った自家用車を新しく買い替えることにしました。子供達の成長により手狭になってしまったので、少し大きめの車にしようとして自動車メーカーのWEBサイト等で色々探してみました。すると、どこのメーカーもハイブリッド車や電気自動車が一般的になっており、十年前に探していた時と比べると随分とラインナップが変わり、技術が進歩したのだと感心しました。それと同時に、さらに十年後にはどうなっているのだろうかという思いになりました。気が早すぎますが、次に買い替える際にはどんな自動車を選ぶことができるのか、楽しみにもなりました。「自動運転」なる技術も広がってきており、現状では安全運転をサポートするという位置づけのものが多くありますが、十年後には「完全自動運転」の車が一般的になっていたりするのでしょうか。交通事故が少しでも減ることは大歓迎ですが、人間が自動車を運転するという楽しみを無くして欲しくはないという思いもあります。

そしてふと、この自動車を分析に置き換えて考えてみました。この十年でも各種機器の進歩により、分析装置の感度が向上したり、解析技術が向上したりと、分析技術としても進歩してきたと思います。それでは十年後の分析化学はどうなっているのでしょうか。最近話題のキーワードとして「AI」が挙げられると思います。上述の産業界シンポジウムでも今年の年会では、「AI、



某放射光施設で見かけた小鹿

MI時代への期待と課題」という特別公開シンポジウムを企画しました。私は企画する側の立場であるにもかかわらず、演者の皆様の講演に聞き入り、感銘を受ける内容が多くありました。自分・自社でもどうすべきか、色々検討を進めているところです。AIの進歩により、「自動分析」や「自動解析」が一般的になるのでしょうか。はたまたAIにより分析そのものが不要になる時代が来るのでしょうか。匠の技による分析や解析が不要になり、誰でも簡単に高度な分析・解析ができるのは良いことかもしれませんが、分析屋としての楽しみが無くなってしまふのは寂しいような気がします。

また、企業における分析屋はどうあるべきか、ということについてもいつも考えています。私は産業界シンポジウムの委員同士の交流で、各社の状況を色々知ることができて非常にありがたく思っております。私から見るととてもうらやましく思えるような企業もあれば、同じような悩みを持った企業もあります。機会があれば、これを読んで頂いた皆様のご意見もぜひお聞かせいただければと思います。

さて、拙稿が平成の締めくくりにエッセイとしてふさわしいものになったかどうか、甚だ不安ではありますが、このあたりで次の方にバトンを渡したいと思えます。次号は、株式会社パーキンエルマージャパンの敷野修様にお願いました。弊社で所有している分析装置で困ったことがあると敷野さんに相談させていただくのですが、いつも丁寧かつ的確にアドバイスを頂き大変感謝しております。分析化学会の企業ブースでもいつも穏やかな雰囲気に対応されており、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。ご多忙のところ快く引き受けていただき、ありがとうございます。平成の次の時代(執筆時点ではまだ次の元号がわかりません)のスタートにふさわしいエッセイを執筆いただけるものと、楽しみにしておりますのでよろしくお願いいたします。

〔株東芝 沖 充浩〕